

■平成26年度 第2回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 平成26年度 第2回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 平成26年7月29日(水) 14時から16時

[開催場所] 市役所第2分庁舎 会議室

[出席委員] 8名(欠席:2名)

[出席]: 饗庭 伸/宇津木 朋子/須賀 良二/菅 孝能/仙石 裕明/仲村 邦弘
/星野 澄佳/吉田 洋子

[欠席]: 相原 聡/松本 久美

[事務局] 5名(街づくり計画部長、街づくり推進課長、街づくり推進担当3名)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

I. 会議次第

1. 開会
2. 報告
内山の市街地整備推進協議会の地区街づくり活動方針について
3. 議題
平成26年度街づくり啓発事業について
4. その他
5. 閉会

II. 内容

1. 開会
2. 報告

内山の市街地整備推進協議会の地区街づくり活動方針について

- ・資料1-1、1-2をもとに、事務局より説明
- 質疑応答(○…委員、▼…市)

○今回の報告について質疑のある方は申し出てください。

○この組織は地区街づくり協議会の認定を受ける以前より、地域で長く活動をされているため、地域の目標や将来像は比較的にしやすい環境にあるのか。

▼構成員に数えられている372名に関しては、意向調査等で市街化区域編入に対して興味を持って

る方を含めている。この方々に関しては、組織の集まりに毎回出ているというわけではない。

▼その中の約50名を集めて定期的に幹事会を開催しており、ここでは比較的活発な意見交換がされている。さらにその中で事務局会議を10名ほどで開催し、今回お出ししたような案などを作成しているので、組織としての意見は出しやすいと考える。

○このスケジュールに無理はないか。

▼事務局会議を週1回のペースで開催し、街づくりの考え方や方針などの構想を事務局案として作成しているため、さほど厳しいスケジュールではないと思われる。しかし、今後具体的な規制の話になった際に、どれほどの合意形成が取れるかが焦点となる。

○他に質問がなければこの報告事項は終了とする。

3. 議題

平成26年度街づくり啓発事業について

- ・資料2-1、2-2をもとに事務局より説明
- 質疑応答（○…委員、▼…市）

○事務局から案が出されているが、この案の中から選ぶのか、それとも別の事業を行うかなど、意見は様々だと思う。まずは一通り意見を出し合った後に、どのような事業を行うのか決定をしていきたい。

○資料にある「中央林間地区街づくりビジョン」とは何か。

▼都市計画マスタープランでは市域を「北のまち」、「中央のまち」、「南のまち」と3つに分けている。中部や南部では、それぞれ大和駅東側の再開発や高座渋谷の区画整理など基盤整備が進められている。北部に関しては昭和の初期から民間鉄道会社による都市開発によって発展した街であり、近年は基盤整備を含めた街づくりが進められなかった。

▼中央林間地区について、駅周辺の課題や公共施設用地の問題などが以前より挙げられていたが、地区全体を包括した街づくりの考え方がなかったために、解決されることがなかった。

▼そこで、今年度より街づくり総務課が主導となって、中央林間地区の街づくりの目標や考え方を検討、作成することとなった。今年度中は具体的な内容までは難しいと思うが、地域の方々や民間事業者の意見を伺いながら大まかな方向性を作成していく。

○神奈川県その他自治体では、少子高齢化や持続可能性という観点から、これまでの街づくりの方針を大きく変える必要があると言うことで、見直しをはじめているところもあるが、大和市ではどのようにお考えか。

○大和市の場合は他自治体とは異なり、首都圏へのアクセスも大変良い。このような問題がすぐに訪れる心配はなく、影響も少ないと思われるが、先ほどの中央林間のお話を伺うと少々違和感がある。

▼大和市においても平成30年代には人口減少に転じると予想されている。現在の都市計画マスタープランは平成22年に修正されたものだが、大和市の街づくりの目標を大きくは変えておらず、次回の作成時に変更があるかもしれない。

▼しかし、大規模な区画整理事業などによる都市開発はすでに時代には合わないと感じており、コミュ

ニティバスの運行等による交通網の整備や、公共施設等の集約化によるコンパクトシティの実現に移行しつつある。

▼中央林間についても、先ほど挙げた課題に対して、区画整理などの面整備による解決ではなく、修復型の街づくりを進めていくために、街づくりの方針を作成するものである。

○地域に住んでいる方々は気に入って大和に住んでいるはずである。そのような方々がイベントなどで、それぞれの地域の魅力を自慢できるような場があると良い。魅力というのは必ずしもモノだけではなく、人的資源や魅力的な活動も含めて発表し合えると良い。

○一方で、行政として課題の収集も重要である。例えば、前回の街づくり賞の表彰式では、大和市で空き家の問題があると聞いて驚いた。大和市は他の自治体に比べればとても便利な地域なので、そのような問題があるとは知らなかった。

○組織の担い手も問題である。少子高齢化が進む中で、特に若い世代をどのように取り込むかということがどこでも言われている。これらの課題を考えるきっかけとして、解決のためにどのような仕掛けが必要なのかを考えるワールド・カフェや街歩きをするのはどうか。

○また、自治会のような地域型の組織では枠組みがしっかりしているためにヒエラルキーを感じられ、若い世代がなかなか意見しづらく、敬遠される要素となっている。反対に新しくカフェなどを始める場合は、新しい意見が求められるため、意見も通りやすく、若い世代が入りやすいということもある。

○地域でどこにも属していない、属することができない方が増えてきている。サークルなどの活動拠点が住まいから離れていたり、高齢化でお店を辞めたために商店会から外れてしまったりしてしまい、地域に居場所がなくなってしまっている。

○特定地域での啓発事業を中央林間でやれば面白いと思う。中央林間は戦前からの開発によって住み始めた方もいれば、その利便性の良さから新しく住み始めた方、最近完成したマンションに住んでいる方など、様々な住み方をしている方がいる。

○特に新しく来た若い世代も多く、そのような方々に中央林間の街へ関心を持ってもらい、市で作成しているビジョンに大いに参画してもらおう機会になれば良い。単身世帯、子育て世帯など、人が変われば意見もそれぞれである。街づくりの題材が多くあると思う。

○（また、公共施設用地の活用方法の問題などもそのような方々に意見を伺えば、今後の街づくりにもつながるはずである。

○過去に街づくり学校で中央林間地区を取り上げたこともあるので、その際に参加者にまとめてもらったものを再度見直すのも良いかもしれない。予てより次の段階へ進められれば良いと感じていた。

○地域に居場所がない。特に住宅街では住宅街以外に自分のいるべき場所が見当たらないという方が多くいらっしゃる。中央林間だと外に出る理由がなかなか見つからないのではないかな。

○何となく立ち寄ることができる居場所づくりワークショップのようなものをすれば面白い。横浜駅や町田駅のように施設が密集しているような地域では難しいかもしれないが、中央林間駅であれば、まだ余地があるのではないかな。

○駅前のカフェなどはいつも人が溢れていて、そういう意味では他に居場所がないと言えるかもしれない。もう少し気軽に集まれる場所があると良い。気候の良い季節であればイスなどを持ち出して集まることもできる。

○何を目指すのかをもう少ししっかり話し合わないといけない。若い世代を巻き込むことを目的とする

のであれば、例えば、多くの人が集まる大和市民まつりで街づくりに関するクイズのような、比較的集まりやすいイベントを行うことも良いかもしれない。

○近年、下鶴間から中央林間西に町名を変えた地区があるが、そこの方々は中央林間の住民であるという意識はあるのだろうか。そのような方々を交えるとさらに話が発展して面白いのではないか。また、中央林間を対象とした街歩きイベントや中央林間について考える企画も良いのではないか。

▼中央林間西は住民から住居表示の依頼があった際に伺ったところ、中央林間あるいは南林間にして欲しいという要望があった。しかし、すでに中央林間は6丁目、南林間は9丁目まで存在していたので実現することはできず、中央林間西という新しい町名が生まれた。

▼中央林間で街歩きを行うとしたら、街づくり学校の際に街歩きのコースを作成したグループもあるので、それを参考にすることはできる。また、協力を依頼すれば手伝っていただけるかもしれない。

▼開催時期としては、今のところ寒い時期となるので、どこか集会場のようなものをお借りして一度集まっていたらいいから街歩きへ出るということになるだろう。

○大和駅で開催している阿波踊りの練習などはどういうところで行っているのか。

▼各自治会や事業所の単位で参加しているものが多いので、各地域の自治会館やコミュニティセンター、集会場のようなものを使用していると思われる。

○あのようなイベントは大和駅周辺だけで行われているのか。全市的に広がるものではないのか。

▼確かに阿波踊りは大和駅周辺から参加する団体が多いが、高座渋谷駅周辺では近年より「渋谷よさこい」を開催している。高座渋谷駅周辺は土地区画整理事業の最中なので、比較的交通規制などが容易にすることができる。まだ歴史は浅いものの、年々参加する団体も増え始めているので、まだこれからというところである。

▼一方で中央林間では、歴史的な背景もあるが、そのような大々的イベントが特に開催されておらず、各地域の自治会などで行われている夏祭り程度で留まっている。

○大和市の地理的特徴もあるが、基本的に地域が異なると、住民はそのイベントに興味を持たない傾向にあるのではないか。南部のイベントに北部の住民はあまり興味がなく、またその反対も同様である。そのような理由から、イベントの開催日がよく重なることもある。

○市内のイベントカレンダーのようなものはあるか。

▼イベント観光課やイベント観光協会などで管轄している。

○ここまで様々な意見が出されたが、事務局としてはどうか。

▼出された意見では中央林間地区に関するものが多く、続いて街歩き・ウォークラリーに関する意見もいただいている。中央林間地区街づくりビジョンに直接関係する事業でなくても、この地域での啓発に繋がる事業になるだろうか。

○どういう啓発を行うのか、着地点が見えていないように感じる。参加者をお客として招いてイベントを開催するだけでは、参加者がただ言いたいことを言って帰って終わってしまう。

○今後、街づくり賞を開催した際に応募事例を増やすことを目的とするのか、それとも街づくり条例に基づく街づくり組織の立ち上げに繋がるイベントを開催するのか。その関係をもう少しデザインしなければ、何となく開催して、成果が得られず終わってしまう恐れもある。

○例えば、地方都市に目を向ければ、先ほど話題にもあった地域の中での小さな拠点づくりが重要となっている。また、他の自治体では公共施設の再配計画が大きな話題になっていて、積極的に取り組ん

でいる。

- 築40年以上経過した戸建住宅のマネジメントをどうするか、昭和40年ごろに建てられた大規模な集合住宅地をどうするかといった問題もよく挙げられる。民間で建てられたマンションの建て替えなども問題として挙がってくるのではないのか。
- 大和市では民間のマンション開発が他に比べて遅く始まった印象はあるので、まだこれからの問題であると思う。現在は空き家もしくはその予備軍が多く、高齢者の独り暮らしが多い。
- 昨年度の街づくり賞のイメージが大切である。外に開かれた空間をどのように活用していくかが話題となることが多い。施設などでも、建物内で行われていたイベントなどを庭先などで開催することで、外に開かれるのでそこから交流が始まる。
- 独り暮らしの高齢者も、家の中までは難しいと思うが、住民間で庭先だけでも開いて交流することができると思う。地域の拠点は公共施設だけとは限らず、常設にするのであれば民地の方がハードルは低く、定着するのも早い。
- ▼公共施設の再配の話で言えば、確かに県内他市でそのような計画の話聞くし、市の担当レベルにおいても、その必要性についての話も出ている。しかしながら、大和市では幸いにも人口が伸び続けているため、他市に比べて危機感はないように感じる。
- ▼一方で、市内の小中学校区全てに設置しているコミュニティセンターなどの公共施設が各地域に点在しているが、将来にわたって本当に必要性があるのかという議論もある。大和市は鉄道、民間バス、コミュニティバスなど交通網がかなり整備されているので、このような公共施設を集約化しようという動きにはなるだろう。実際に、高座渋谷駅前のIKOZAや大和駅東側の再開発ビルなどがその象徴である。
- ▼全市的に公共施設の再配計画があるわけではなく、コミュニティセンターなどの公共施設もサークル活動の場として積極的に使用されている。住民の集会などで話を伺うと、地元にもそのような施設を作って欲しいといった要望をされる方は未だにいらっしゃる。
- いずれのテーマを取り上げるにしても、ある問題について地域に投げ掛け、地域で考え、地域で解決していく方向へ持っていくことがこの啓発の目的ではないか。地域でこのような問題がある、地域で話し合えば実現できるものもあるといった投げ掛けを明確にし、事業に落とし込まなければいけない。
- いくつかのテーマの中から対象を絞り、その典型例として中央林間を取り上げて事業を行うというのであれば、筋が通っているので問題はない。しかし、ただ何となく中央林間を対象とした事業を展開しても先に繋がらないのではないのか。
- 地域での資源探しや将来を見据えて今後問題となりうる課題を見つけることも大切だろう。行政に頼りきりではなく、地域の活動で解決できるものもあるということを示すことが大事である。
- しきりに高齢化が叫ばれているが、退職した方が多く、自由な時間の多い方が地域にたくさんいるとプラスにも捉えることができる。また、諸事情により高校・大学を中退し、地域に閉じこもっている若い世代も多からず存在するという事も耳にする。そのような方々が地域で仕事を持ち、社会へつながりを持つきっかけにならないかという話もある。
- 大和市では人口が増えているという話もあるので、新しく大和市へ来た方々をどのように動かすかということも考えなければならない。
- ▼人口が増えているのは確かだが、同時に高齢化が進んでいることも事実である。特に南部では顕著で

ある。中央林間は他の地区に比べればそこまで進んでおらず、撤退した企業、工場がマンションへ変わる事例が未だに多くある。

○地域で高齢化が進んでいないように見えても、例えばワンルームマンションの多い地区では若い世代が多いが、その他の地区では高齢化が進んでいるなど、状況がバラバラであることもある。広域的につながりを持つことができればバランスは良いが、地区個々で活動していると問題が発生することもある。

○地域を対象に事業を行うのであれば、テーマをいくつか用意しておかなければいけない。テーマごとにテーブルを用意して実施するというやり方もある。

▼先ほどコミュニティバスのお話をさせていただいたが、新しいコミュニティバスは車体も小さく、かなり地域の奥までルートを設定している。外出することで健康に良い影響を与えるだけでなく、いつも同じ時間帯に乗り合わせる方と知り合いになるなどの効果もある。

▼現在、いくつかの調査の中で、大学と連携してコミュニティバスと健康の関係について調べている。テーマを選ぶのであれば、そのようなこともテーマとして含めることができれば良い。

○若い世代としては、課題などの悪い点が話題に挙がりがちで、少々入りづらい雰囲気となる。大和市には何もないというイメージが強いが、街に愛着が持てるようなものができるとう良い。

○人はやりたいことがあるからか、危機感がないと動かないものである。恐らくいま危機感を煽ってもあまり効果がないのではと感じている。反対に大和市の良いところをアピールして魅力ある面白い街だと思っていただけるようなものにすれば動きやすいのではないかと。

▼現在実施している街づくり学校は、少人数で参加者を集め、街づくりのルールや、場合によっては深いテーマについても話し合いをしていただき、いろいろなことを学ぶ場として提供している。反対に街づくり賞では、広く市民の方へ街づくりに関心を持っていただくきっかけ作りとして開催している側面が強い。

▼中央林間を対象とした事業を開催するのであれば、そこに住んでいる方々にとっては日頃気付かなかった魅力を発見できるような、また、他から来た方にとっても良いと思っただけの街の魅力が上手く組み合わせれば面白い。そこから魅力的と評価された点について、地域でルール化を図るなどの活動に発展できると良い。

○これまでの経験では、良いところを発見するといっってワークショップを開催しても、どうしても悪いところが目についてしまうことが多くあった。良いところを見つけるという仕掛けを作り出せば、啓発としては上手くいくのではないかと。

○神奈川県知事が観光に力を入れている。最近では観光というのは、観光名所を回るものという従来のものだけではなく、自分の日常の暮らしがいかに面白くなるかということを考えている。そのために、他所の人と地域でどう交流をするか。地域で面白いことをしている人を見つけ、どのように仲良くなるかという視点で観光を捉えている。

○これまでの言い方で言えば地域間交流ということになるが、地域に住んでいる方が他所の方に自慢したいことを出してもらうのも良いだろう。

○展示会などは、自分で企画・開催しようとするとう大変な手間がかかってしまう。家の中にある趣味などの作品を外へ出す「蔵出し」のようなものがあると面白い。隠れた才能、隠れた名作のようなものが出てくるのではないかと。

- また、先ほどの話の続きで、地域に住んでいる方というのはどうしても悪いところに目が行ってしまうものである。市外の人間からすれば、大和市は素晴らしい街に見える。例えば、大和には歴史もあるので、この歴史を上手く活用できると良いと思う。
- 事業のゴール地点をどこに持っていくかということが一番重要であろう。一方で時間の多い高齢の方をターゲットとするのか、若い学生を呼び込むのか、この2つは言わば両極端であると言える。また、単発的に終わってしまうものでは啓発の意味がない。その先に残るものが必要となる。
- ▼中央林間は一般的な市街地と少し異なった側面がある。最近になって中央林間という名前を見て住み始めた方は、米軍ハウスや茶室のある多胡記念公園の存在を知らないという方もいるだろう。街のことを知り、中央林間に関心を持っていただくことも大切であるし、さらにそこから街のルール化という話まで目標とできると良い。
- 次回の街づくり推進会議の際に、現地を見て回るのはいかがでしょうか。中央林間に関する情報も各委員で異なっているようなので、共通の認識を持てると良い。
- 現地へ行くことは別にして、大和の問題についてももう少し理解を深めないといけないとは考えている。人口の統計などから、次代の街づくりを担う世代がどのような方々なのかをしっかりと想定して方針を考えなければいけない。
- ▼確かに、既存の組織でも主に活動されているのは、退職された高齢の方々に、今後多くの組織で世代交代が行われると思われる。WEBサイトの更新などのパソコン関係の処理も高齢の方が勉強しながら行っているのが現状である。そういうところに若い世代が入ってくると、組織もいろいろ変わってくるだろう。
- 最近では若い方が自分たちで開催するイベント情報などをスマートフォンで情報発信している例もある。また、それを見て若い世代が集まっている。そういった方々に集まってもらえればイベントも面白くなる。
- 地元で学生を集めて街の魅力だと思えるものを探して写真に撮り、それを参加者に発見してもらうというイベントを開催したが、なかなか好評であった。そのような発想は我々ではなかなか出てこない。
- 大和へ転入している若い世代というのは恐らく首都圏に職場を持つサラリーマン世帯だろう。例えば、中央林間で商売を始めたり、何か物を作って売ったりしている方がどれほどいるだろうか。
- 私の近辺を見ると、自分で何かを始めようという若い世代の方が増えている印象がある。様々な要因があるだろうが、1つは土地柄だと考えている。そのような方々は土地を選んで集まっている。大和市がそういう方を集めやすい土地柄なのかという問題もある。そこをもう少し調べてみるのも良いだろう。
- 何かを始めようと考えている方が集まると、そこに個性的な個店や工房が増え、また外から人が集まってくるという循環が生まれる。そういう方は歴史のある土地を好む傾向にあり、そういう意味では、中央林間は昭和初期の林間都市開発から今日まで良い住環境を形成してきた経緯もあるので、下地としては十分であると思う。
- 過去の街づくり賞の受賞事例でも、中央林間で米軍ハウスを利用してお店を営んでいたり、自分の家の庭をオープンガーデンとして開放していたりするのが見受けられた。
- そのようなコミュニティをどのようにして街づくりにつなげるのかがポイントだろう。現在の大和のコミュニティの状態が分かると良い。

- 昨年の街づくり賞受賞事例に係わっていた「おやじたちの会」はPTAのOB会であるが、地元の自治会などと良い関係を築き、自分たちの活動をしていた印象である。そのような組織に対して街づくり条例を宣伝できると良い。
- 市民活動の範囲も変化している。ただのボランティア的な活動だけでなく、ある程度仕事となるような活動もしている。女性の立場から考えると、近くに働く場所がないことが問題で、コミュニティカフェなどを始めると自己実現と少しのお金がもらえるという理由からみんな集まってくる。女性の視点と若い世代の視点は似ている。
- 同感である。自分の近くに自己実現を可能にする職場がなく、その反面、子どもの教育にかかる費用は稼ぐ必要があるという問題はある。
- 話を少し戻すが、市内の各地で手作りのものを売っているイベントを開催しているのをよく見かける。そのような街の資源は探せば出てくるのではないか。
- 話をそろそろまとめたいと思う。次回の街づくり推進会議でも啓発事業について話し合いをする機会がある。先ほども言ったとおり、どのような方々、世代をターゲットとするのかをもう少し明確にする必要がある。
- 人口に関するデータや活動を行っている方々、大和の市民像のようなものが意識調査としてあれば、次回の話し合いに向けての資料としたい。
- ▼今回の議論を参考に事務局で集められるデータを収集する。次回の街づくり推進会議は例年より早い時期に開催した方が都合が良いかもしれない。
- ▼議論の前半では特定地域での啓発事業という話がメインであったように見受けられたが、ご用意した大和市のデータを一度お出ししてから、再度議論を行うと言うことで良いか。
- 目的意識を明確にしたいと思う。
- どこの地域に特定するかということだけでも決めておいた方が、今後の作業や比較もしやすくなるのではないか。
- それでは、議論にも多く出ていた中央林間に特定するというで良いか。大和市内で中央林間がどのような場所なのかということが分かるデータを用意していただきたい。
- ▼今回の啓発事業の参加者は市全体の街づくりを考えるということで全体に呼びかけるものにするのか。それとも地域の個別具体的な問題を取り上げるので、地域の方と限定とした方が良いか。これは次回の落とし込みの作業の際に決めていくということが良いか。
- 地域で活動している組織の方は積極的に呼びかけた方が良いだろう。
- 確かに、同じ地域で活動している方々が地域の共通の課題について話し合う場があれば、その後のつながりが持ちやすく、街づくりの動きも出てくるだろう。
- ▼中央林間駅周辺の8自治会が協力して、街づくり委員会を新しく作ったという話を聞いた。そういう方々は来ていただきやすいだろう。
- 次回の街づくり推進会議でその委員会の方に同席してもらうことは可能か。
- 中央林間で活動している組織はこの委員会だけではないはずである。1つだけ呼んでしまっただけでは不公平となってしまう、後に面倒なことになる恐れもある。
- ▼先ほど依頼があった作業に、どのような組織が活動しているかということを加えて、次回の街づくり推進会議の前にお出しする。

○それでは、事務局に諸々の作業を依頼し、今回の議論はここまでとする。

4. その他

◎7月より工事が始まった大和駅東側第4地区第一種市街地再開発事業について、進捗を報告した。

◎次回の推進会議は、10月上旬を目途に日程調整をすることになった。

5. 閉会

以上